

Z-1:賛助会員セッション エルゼビア・ジャパン株式会社

開催日時 9月17日(木曜日) 15:15 - 16:45

SDGsを中心とした社会課題型研究をエビデンスを用いてどう推進するか

近年、2015年の国連サミットで採択された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指すグローバル目標であるSDGs(Sustainable Development Goals)達成に向けて、大学や研究機関の貢献に期待が高まっています。SDGsは社会、地域、企業に浸透しつつあり、社会のあらゆる主体が社会課題を解決するための、「共通言語」として認識され始めています。

このような背景のもと、各大学や研究機関では独自の組織的な取り組みを進めており、URAやIR担当者はSDGsに係る研究力の分析・戦略策定から国際・産学連携支援、研究機関としての発信力強化まで様々な活躍を期待されています。

そこで今回、「SDGsを中心とした社会課題型研究をエビデンスを用いてどう推進するか」をテーマに、前半、後半と2つのパートから成るセッションを開催いたします。セッション前半では、弊社の研究力分析ツールSciValを活用している岡山大学的那須保友研究担当理事・副学長および立命館大学研究部事務部長・産学官連携戦略本部副本部長の野口義文様をお招きし、SDGsに関する独自の理念や行動指針を掲げる両大学での取り組みをご紹介いただき、特に分野融合、学際的であるSDGs研究に関し、研究戦略をデータに基づき、どう推進しているかについてお話いただきます。

また、後半では弊社のコンサルタント、山内から自機関のSDGs関連研究の状況を把握し、強化するためにSciValデータをどのように活用できるかについてご紹介いたします。Times Higher Educations社のTHE Impact Rankingsでも採用されているSciValにおけるSDGs関連研究の定義方法や、SDGs関連研究の世界・日本のトレンドも併せてご紹介いたします。

セッション担当者・登壇者



山内 幸一： エルゼビア・ジャパン株式会社
リサーチ・インテリジェンス部門
ソリューションコンサルタント

エルゼビア・ジャパンにおいて、大学・研究機関の研究活動に関する調査、連携、戦略立案、業績評価、論文執筆などを目的とした情報分析やデータ活用支援のサービスを担当。博士(工学)

登壇者



那須 保友： 岡山大学
理事(研究担当)・副学長

昭和61年(1986年)岡山大学大学院医学研究科修了。専門は泌尿器科学で、内視鏡手術(腹腔鏡、ロボット手術)、遺伝子治療の研究開発に取り組んできた。我が国初の前立腺がん遺伝子治療臨床研究を岡山大学で実施。大学院研究科長、AMED橋渡し研究拠点のリーダー(PI)を務める。現在は、研究担当の理事・副学長を務めている。岡山大学発の遺伝子治療薬の開発を目指し、ベンチャーの立ち上げ・運営にも関与した。趣味はサイクリング。



野口 義文： 立命館大学
研究部 事務部長
産学官連携戦略本部 副本部長(兼務)

2009年立命館大学研究部事務部長、2013年同大学産学官連携戦略本部副本部長(兼務)、現在に至る。2011年度 JSTイノベーションコーディネータ賞受賞。文部科学省科学技術・学術審議会専門委員、理化学研究所事務アドバイザー・カウンシル委員等を務め、2016年からは大阪府下の茨木市産業振興アクションプラン推進委員会委員長として地方創生業務にも従事。現在、立命館大学研究部職員約250名の責任者として、研究高度化をけん引。